



ほんまもんの改革

『時速300キロは怖くないが、時速30キロは怖かった!』

周平さんとのエピソードですが、やっぱり前回の衆議院選挙の時に、僕が選挙カーのドライバーをさせていただきまして、和歌山の街の中をですね、ゆっくりとゆっくりと走り回って、有権者の皆様に周平さんが訴えているの聞きながらですね、振り落とさないようにゆっくりゆっくり走った。F1では時速300キロ出しますが、時速30キロ未満で道路を走るの本当に怖かったものでした。やっぱりそれが過去初めての経験であり、非常に印象的だったと思います。

政治家、候補者としての岸本周平という人間の印象は、お見受けするに、やはり芯がしっかりして、これをしたいと、こうしたいという理念に燃えているということは、もうしっかりと出来上がっていて、衆議院選の後でもですね、お会いしたんですけど、ますますもって自分の信念を押し通そうとするか、そういった姿が、見受けられるなって感じですね。

和歌山の皆様をお願いしたいんですけども、岸本周平しっかりとした考えで、活動していると思いますので、ぜひ応援してあげてほしいなと思います。また、周平さんにおいては、ますます磨いて、自分を磨いて、今度は一発頑張ってもらいたいなと思います。また出来れば選挙カーの運転手をさせていただけたらなと思います。頑張ってください。(談)



元F1レーサー

申嶋 悟さん

元日本人初のF1フルタイムドライバー、
現ナカジマレーシング監督。

1953年2月23日生まれ。

きしもと **周平**
岸本 しゅうへい

www.shuhei-k.jp

著名人、岸本周平を語る！



雑誌『インサイダー』編集長

高野 孟さん

TV朝日「サンデープロジェクト」
(日曜日朝10時～準レギュラー)

東大法学部出の大蔵官僚というわりと嫌味な人間が多いんですけども、そして非常に単線的なというか、融通の利かない人が多いんですけども、岸本さんというのは正反対で、東大出の大蔵官僚でこんなに頭のやわらかい人がいるのか、というのが最初の印象でしたね。

アメリカの大学で研究したり教えたりということも経験もし、大蔵省辞めてからはトヨタに入ってビジネスの道を歩むのかと思ったら、トヨタからの派遣という格好で小泉内閣に行って政策立案に携わる、というようなこともして。多分政治の世界に進出しようというのは、その時の内閣の中で政策作りに携わったということが、ひとつの踏み切りになったんじゃないかと思いますが、そういう具合で非常に色んな分野に関心があって、色んな分野について語る事ができて、一番驚いたのはやっぱり、中高年のための英語の本出しましたよね。この人は英語の本まで出すんだというので、その多彩ぶりにあらためて非常に驚いたんですね。

政策については色んな領域について明るいですよ。経済産業省にも出向したこともありましたが、だから産業もわかる、金融もわかる、通貨もわかる。経済全般も何でも来いと言うことでしょうか。私は早く岸本さんが国会に議席を得てですね、そういう政策面で大いに活躍をしてもらいたいという風に思っています。

古い自民党政治では日本は変わらない。変わらないというかこれより前に進めないというところに来ていると思います。そこでやはり民主党から政策に明るい岸本さんがうって出るということによって、本当に21世紀の日本をどうするんだという方向付け、そういうものを岸本さんにはぜひ国会の場でどンドンどンドンそういう活動をしていてもらいたいなと思っています。(談)



まっすぐ清廉政治。

